25
令和6年12月

岩手大学教職大学院 NEWS Letter

国立大学法人 岩手大学

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!
https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X
●円井哲志・田代高章・川上圭一・鈴木久米男（2024）高等学校における学年の組織力向上の在り方ー学年主任の役割と組織力を高める具体的手立てー
●登坂皐月・清水将・清水茂幸（2024）ネット型連携タイプにおける意思決定の難易度に応じた教材配列の検討　他12編掲載、教育学研究科研究年報 第８巻

問合先：岩手大学教育学部
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

「学校マネジメント力開発実習」での学びと手応え

M2　現職院生　佐藤　綾

８月に1泊2日のマネジメント実習がありました。宮古教育事務所管内の教育行政の現状についてお話を聞き、「子どもを主語にした復興教育」の大切さについて改めて考える機会となりました。また、10月には盛岡教育事務所で教育諸課題の解決に向けた提案と協議を行い、実践力を向上させました。この学びを来年度からの現場実践にいかします。

M2学校マネジメント力開発実習では、教育委員会や教育事務所での事務局業務や研修運営業務など、学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習しています。

「被災地実習」での学びと手応え

M2　学卒院生　菊池　貫太

私自身、陸前高田に足を運んだのはこの実習が初めてでした。随所に残る遺構からは、震災当時の状況と復興の歩みを感じさせられました。実習の中で直接、被災地の状況を見て、復興教育に取り組む教員の思いに直接ふれることができたことは、今後復興教育に携わる岩手の教員として、貴重な学びだったと感じます。この学びを実践につなげるとともに、今後の復興教育のあり方についても模索していきたいと思います。

教育学研究科教員メッセージ

研究者教員　髙田麻美

教職大学院は、実践的指導力を備えた教員を養成することを目的とします。では、「実践的指導力」とは何なのでしょうか。実のところ、教育実践にすぐに役立つスキルを獲得することに留まりません。自身の教育実践が子どもにいかなる影響を与えているのかを冷静に診断し、さらには、それがどのような社会的要因の影響をうけているのかを相対化する力も含まれます。授業科目「専門職としての教員の在り方とその力量形成」では、教育史学の知見に基づき、社会と教師の関係を問い直す実践を取り入れています。授業科目「教育実践リフレクションⅣ」では、現職院生の授業実践を素材に、授業者の信念や「思い込み」を意識化し、子どもを主体とした授業改善の方策を協議しています。長年の経験で培ってきた教育観や習慣化された教育実践を立ち止まって見つめ直せるのが教職大学院の大きな強みです。2年間という学びの時間を通して、教師のあり方を探究してみませんか。

「子ども支援力開発実習」での学びと手応え

M2　現職院生　畑中　有香子

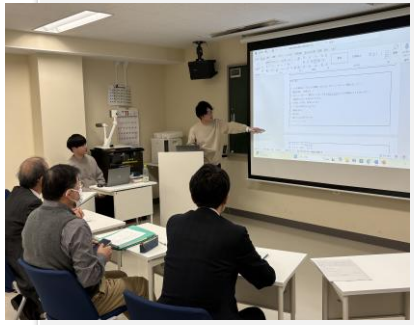
附属小、中学校において、子ども支援力開発実習を行いました。M2のねらいは、「課題解決」の補助を体験し、コンサルテーションのコツを獲得することです。援助チームシートを活用し、児童生徒を客観的、総合的に理解し、適切な支援につなげます。自助資源に着目しながら援助の方向性を見つける視点について、学ぶことができました。

教職大学院の日々

理論と実践の融合。

M１　学卒院生　伊藤　颯希

授業研究会では授業動画を視聴しながら、評価や今後の指導について考えました。様々な視点から、学習活動について見直しながら議論を重ねていくことで、新たな発見や授業づくりの基本について学ぶことができました。授業に限らず、現代に求められている能力を研究に絡めながら協議し合い、充実した研究会となりました。



M2　学卒院生　井野　龍汰

教職大学院でも、学部と同様にゼミを定期的に行っています。ゼミでは、研究の方向性などの助言をいただいております。学部の時と大きく異なるのは、実務家教員の先生からも助言をいただけることです。教育現場を熟知している先生から実践的なアドバイスをいただけるので、理論だけでなく実践的な視点で研究を進めることができます。

M1　現職院生　川名　弘晃

教職大学院では、私自身の今までの実践を多角的・多面的にリフレクションする場となっています。先人達の研究や実践を基にした理論を学び、子ども達の姿を思い描きながら、今後の実践で大事にしたい考え方を熟慮しています。子どもを中心とした教育を見据え、院生同士で対話する中で新たな気づきがある日々を大切にしていきたいです。

「ニューズレター」の最新号とバックナンバーは、こちらから
https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

「岩手大学大学院教育学研究科研究年報」は、こちらから
https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/shoukai-2/seika

「岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業 教育実践研究論文集」は、こちらから https://www.edu.iwate-u.ac.jp/kenkyuu-2/gp/

「教育実践・学校安全学研究開発センター」は、こちらから
https://www.edu.iwate-u.ac.jp/huzoku/jsw/